

名取市商工会工業部会・名取市議会  
建設経済常任委員会懇談会会議録

- 1 日 時 平成28年4月15日（金）  
午後3時1分～午後4時13分
- 2 場 所 第1・2委員会室
- 3 出席者 別紙名簿のとおり
- 4 調査事項 復興公営住宅建設の取り組みについて

建設経済常任委員会 出席者名簿

NO	役職名	氏名
1	委員長	及川 秀一
2	副委員長	大友 康信
3	委員	齋 浩美
4	委員	荒川 洋平
5	委員	小野 泰弘
6	委員	相澤 祐司
7	委員	菊地 忍

(事務局)

事務局長 今野 博幸

主 事 石川 法子

名取市商工会工業部会 出席者名簿

NO	役 職 名 (会社名)	氏 名
1	名取市商工会工業部会 部会長 (有印刷センター)	中澤 勝巳
2	名取市商工会工業部会 副部会長 (株今幸建設)	百田 英樹
3	名取市商工会工業部会 副部会長 (有藤井設計事務所)	藤井 勝好
4	名取市商工会工業部会 幹事 (有山田建設)	山田 雅俊
5	名取市商工会工業部会 幹事 (有齋藤板金店)	齋藤 伸
6	名取市商工会工業部会 幹事 (株相澤設備)	相澤 良朋
7	名取市商工会工業部会 幹事 (中昭機電工業)	中沢 昭治
8	名取市商工会工業部会 幹事 (小檜山建築事務所)	小檜山 篤
9	名取市建設職組合 組合長 (有小畑工務店)	小畑 惠一
10	名取市建設職組合 副組合長 (有今野住建)	今野 文秀
11	名取市建設業者会 会長 (有相沢建設)	相澤 俊介
12	名取市水道指定店会 会長 (株いこい住設)	佐藤 康浩
13	(一社)名取市復興公営住宅建設推進 協議会 (フェニーチェ東北ホーム株)	伴野 政樹
14	名取市商工会工業部会 部会員 (有環境デザイン工房)	秋山 哲也
15	名取市商工会工業部会 部会員 (株吉川設備)	吉川 幸一
16	名取市商工会工業部会 部会員 (大和電気株)	相澤 光輝
17	名取市商工会	石森 容介

午後 3 時 1 分 開会

○事務局（石川法子） ただいまより名取市商工会工業部会・名取市議会建設経済常任委員会の懇談会を開催いたします。

初めに、名取市議会建設経済常任委員会委員長であります及川秀一より御挨拶を申し上げます。

○委員長（及川秀一） 皆様こんにちは。

建設経済常任委員会の委員長をしております及川秀一でございます。よろしくお願いいたします。

本委員会のメンバーでございますけれども、ここに並んでいる 7 名です。実は 1 月の改選時に委員会が三つに分かれました。前回の懇談会のときはもう少し人数が多かったかと思うのですが、今回三つの委員会で 7 名構成の委員会になっております。

今回の懇談会につきましては、名取市商工会工業部会からの申し入れをいただきまして、名取市議会基本条例の規定に基づきまして、本委員会と関係団体の皆様との懇談会を開催させていただいた次第でございます。

従前より復旧・復興につきましては、名取市商工会工業部会の皆様には日ごろから御協力を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。

本日の議題としましては、名取市商工会工業部会より申し入れをいただきました復興公営住宅建設の取り組みについてにつきまして、本委員会と皆様方との御意見を交換する形になります。

この会の進め方に当たりましては私が進行させていただきますけれども、皆様方の御忌憚のない御意見や御要望につきましてお伺いをさせていただきたいと思っております。なお、そのほかにつきましても、お気づきの点等がございましたら、遠慮なくお聞かせを願いたいと思っております。

短い時間ではございますが、懇談会が盛会裏に進みますことを願いまして、一言御挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（石川法子） 続きまして、名取市商工会工業部会部会長であります中澤勝巳様より御挨拶をお願いいたします。

○名取市商工会工業部会部会長（中澤勝巳） 商工会の工業部会の部会長の中

澤です。

本日はお忙しい中、名取市議会建設経済常任委員会の皆様の御出席ありがとうございます。また、私たち商工会の活動に対しまして、日ごろより御援助・御支援方もいただきましてありがとうございます。重ねて感謝を申し上げます。

商工会の工業部としては、きょうは主に復興公営住宅についてですが、秋祭りの工業展では工業に関する情報や研修会を重ねております。東日本大震災時には、特に建設関係ということで復旧に関しては不眠不休で頑張りました。この中で、ぜひ復興公営住宅の戸建てについては、地元でできないかと協議を重ねてきて、この要望を行政、議会に提出しまして、現状に至っております。当時は行政でも議会でも、今でいうと50億円くらいになりますから、その意味では無理かなという点もありましたが、皆さんでまた協議を重ねてきて、現状に至っております。

この間の全国の全国建設労働組合総連合、全建総連の建設組合の業界団体が松島でやったのですが、私たちの活動が評価されて副部会長の百田さんが講師を務めるという、そういう意味では高い評価も得ております。このことについては、中心に活動してきた百田さんと、それから一般社団法人名取市復興公営住宅建設推進協議会の会長であります相澤さんから後で説明をしていただきますので、よろしく願いいたします。

工業部会としても、一日も早く、住みやすい復興公営住宅を提供できるように、今後とも頑張っていきます。そういう意味では、議員の皆さんの御支援をよろしく願いしたいと思います。本日はありがとうございます。

○事務局（石川法子） ありがとうございます。

では、続きまして、本日の出席者紹介をお手元の出席者名簿により行いたいと思います。

初めに、名取市議会建設経済常任委員会の出席者の紹介を及川委員長よりお願いいたします。

○委員長（及川秀一） それでは、建設経済常任委員会の委員を紹介させていただきます。

向かって右手から、齋 浩美委員でございます。その左隣が小野泰弘委員。その隣が菊地 忍委員。順番に私の隣、大友康信副委員長です。その隣、相澤

祐司委員。その隣が荒川洋平委員。以上7名でございます。

○事務局（石川法子） 続きまして、名取市商工会工業部会の出席者の紹介を名取市商工会の石森様よりお願いいたします。

○名取市商工会（石森容介） それでは、事務局の私、石森から御紹介させていただきます。

まず、部会長の中澤勝巳でございます。副部会長の百田でございます。続きまして、副部会長の藤井でございます。幹事の山田でございます。幹事の齋藤でございます。幹事の相澤でございます。幹事の中沢でございます。小檜山が本日遅刻になります。続きまして、名取市建設職組合、組合長の小畑でございます。副組合長の今野でございます。続きまして、名取市建設業者会、会長の相澤でございます。名取市水道指定店会会長の佐藤です。一般社団法人名取市復興公営住宅建設推進協議会の伴野でございます。部会員の秋山でございます。同じく部会員の吉川でございます。部会員の相澤光輝でございます。

○事務局（石川法子） それでは、意見交換に入りたいと思います。

ここからは、建設経済常任委員会及川委員長の進行で進めてまいりたいと思います。及川委員長、よろしく申し上げます。

○委員長（及川秀一） それでは意見交換に入りますが、その前に出席者の皆様をお願いを申し上げます。

意見交換では忌憚のない御発言をいただきたいと存じますが、懇談会会議録を作成する関係上、発言の際は挙手をいただき、私が御指名いたしますので、その後で御発言くださいますようお願いいたします。

それでは、復興公営住宅建設の取り組みについての（1）進捗状況について、工業部会副部会長の百田さんから、今までのいきさつも含めて御説明をいただきます。百田さん、よろしくお願いいたします。

○名取市商工会工業部会副部長（百田英樹） 今、議員の皆様のお手元に2ページにわたりまして資料があろうかと思いますが、まず先般市議会の選挙がございまして、新しく議員になられた方もおられますでしょうし、新しく建設経済常任委員会委員になられた方々もおられると思います。また、その前から、私どもと建設についていろいろと意見交換をされた議員の方はわかっておられる節があると思いますけれども、改めまして、そのいきさつをお手元の資料を

もとに御説明したいと思います。

まず、東日本大震災が平成23年3月11日に発生しまして、その後、国土交通省の依頼を受けて、公募型買取災害公営住宅整備事業の案が立ち上がったわけです。これは国土交通省からの通知が、もちろん宮城県に、当然名取市にもきて、翌年の平成24年の初旬に災害公営住宅整備事業等対象要綱ができました。

震災当時、名取市を含めていわゆる災害復旧工事について、すぐにUR都市機構、今でいう都市再生機構が名取市の震災復興部に常駐いたしまして、復興公営住宅の立案、基本計画等々、それから発注をどのようにしたらいいかという手法を、名取市の行政の職員の方々にいろいろとアドバイスをしておったようでございます。

その後、平成25年2月に我々名取市商工会の工業部会のメンバーで、いろいろと相当な戸数、約800近い復興公営住宅を供給しなければならないという大体的前提ができ上がりました。工業部会においても、鉄筋コンクリートの大型物件だけではなくて、木造の戸建て住宅を建設するという、数が約350戸、鉄筋コンクリートとちょうど半々ぐらいの数量で発注があるということをお伺いしまして、ぜひとも名取市、地元の力で木造の戸建てをやらせていただきたい、ぜひ協力させていただきたいと意見がまとまりました。この中にも市内業者の大きな組織がございまして、建設業者会、建設職組合、建築士会、水道公認店会、建友クラブ、電気業者会等々の6団体の首長が集まりまして、市に請願を行ったわけです。

当時は早急な工事ということで、当然名取市には皆さん御存じのとおり平らな敷地がほとんどなくて、田んぼとか畑が多いわけです。造成をしながら建物を建てなければならないということで、かなりのスピード感をもってやらなければならないということが一つありました。

市当局としても、UR都市機構が常駐しておりましたので、いわゆるプレハブメーカー、大手のプレハブメーカーで早急に復興公営住宅を建設したらいいのではないかという意見もあったようですが、実際我々地元の建設業者、先ほど申しました6団体においても、みんな同じように被災した業者ばかりだと。市長のにどうにか地元の、我々も被災しているので、本当に困っている、家もなくなった被災者に一刻も早く供給したいので、どうにか力を合わせてやりた

いのでということ、市長に請願を行ったわけです。

市長から、いろいろ難しいぞというお話は聞いておったのですけれども、我々推進協議会も、既に東松島あるいは石巻、仙北のほうでそういう事業に着手した団体がありました。そういうところの手法を聞きながら、また勉強もして、一般社団法人の組織をつくり上げればどうにかなるのではないかとということで、皆さんの事務局をいただきまして法人の設立に至ったわけです。

当然、これは買い取り方式、いわゆる一般社団法人の組織がみずから設計をして、設計の許認可を受けて工事を行って、そして名取市の検査を受けて、市に買い取っていただくと。いわゆる建物提案型買取方式ということで、もちろん着工の前に全ての図面の精査とか、施行内容の打ち合わせ、それから工期、いつ始めていつお引き渡しができるか等々を綿密に市の震災復興部と打ち合わせをさせていただいて、見積書も提出して、市議会の承認を受けた後に、譲渡契約が発生して着工の運びとなる流れとなっております。

現在の進行状況なんですけれども、平成27年3月に下増田地区の災害公営住宅42棟、これは着工したのが平成26年7月で、42棟を平成27年3月に無事引き渡しを終わりました。閑上の第1期工事88戸のうち平成27年12月に議決をいただいた25戸は、本年28年1月に着工の運びとなりまして、88戸のうちの77戸を11月までにお引き渡しするようになります。残りの13戸は、現在まだ住んでおられる住民がおられまして、この立ち退き作業と動静を含めまして、閑上の第2期工事に13戸が含まれるということになっております。

今私が申しあげました閑上第1期の77戸のうち、25戸については平成28年の6月末に市に引き渡しをする約束となっております。ですから、残りの52戸が、平成28年11月にお引き渡しをするということでございます。同じく本日、名取市高柳の圭田地区の安全祈願祭を行ったわけなんですけれども、圭田地区に50戸、これも平成28年5月に着工しまして、平成28年12月末に50戸をお引き渡しする予定でございます。

その次、閑上の第2期工事69戸、これにつきまして平成28年の10月末あるいは11月1日あたりから着工しまして、平成29年、来年の5月末に引き渡し予定でございます。

続きまして、閑上第3期100戸、これにつきましては、今の予定では平成30

年、再来年の5月にお引き渡しということで、延べ戸数349戸を戸建て住宅として提供するというようになっております。

閑上の1期のその1の25戸は、ほぼ足場も大体取れまして、外見上は非常にきれいな建物ができ上がっております。5月の中旬から外構工事に入りまして、6月末に25戸はお引き渡しができるのではないかと。既に4月の初めから52戸の着工をしております。

当初、市との約束で、建築の場合に計画設計、それから実施設計、積算、施工を含めまして、8カ月ほど欲しいというお話を差し上げていたのですけれども、設計を入れますと約1年かかるわけです。施工そのものを約8カ月欲しいというお話で進んではおったのですけれども、何せ造成のほうがなかなか思うように進まない節もございまして、少しずつ我々の工期8カ月を7カ月にしてくれ、7カ月をもっと短くしてくれというような要望がございまして、いずれにせよ被災者のまだ仮設住宅に入っておられる方のために、我々も現在力を尽くしているところでございます。

○委員長（及川秀一） ありがとうございます。

それでは、ただいま御説明いただきました内容につきまして、御意見を伺ってまいりたいと思います。

委員から何か御意見ございませんでしょうか。齋 浩美委員。

○委員（齋 浩美） 今、最後に、当初施工期間が8カ月あったものが7カ月になり、だんだん詰められているというわけではないと思うんですけれども、習熟していけば多分詰まると思うのですけれども、そこでやはり無理とかされていてはしないという認識でよろしいでしょうか。

○委員長（及川秀一） 百田さん。

○名取市商工会工業部会副部長（百田英樹） 実際のところ、建築というのは適正工期というのがございまして、いわゆる適正価格、適正工期というのがございまして、なるべくでしたらその8カ月というのは一番適正な工期なわけです。よって、一月、一月半詰めろということになりますと、どうしてもコストアップにもつながりますし、いわゆる安全面にも左右してくるのではないかとこのところでは危惧はしております。

ただ、我々のいいところは非常にまとまりがよくて、一致団結して人が足り

ないところには応援しながら、まとまって仕事して一日も早く被災者の方に提供したいというのが本音です。

○委員長（及川秀一） ほかにございませんか。相澤祐司委員。

○委員（相澤祐司） 今の8カ月のお話を伺いましたけれども、市としてもそんなにも急いでほしいと求められているのですか。

〔小檜山篤氏入室〕

○委員長（及川秀一） 百田さん。

○名取市商工会工業部会副部長（百田英樹） 震災復興部と我々との打ち合わせでは、計画は我々元請業者が10社、電気、設備を含めて、水道公認店が13社、電気が9社ですから、我々協議会のメンバーを含めると大小合わせて46社ほどで一生懸命やっているわけですが、当初は例えば下増田地区が完了して、次から次に工事が出るもので、場所が当然違いますので、同時着工は難しいので、3カ月ぐらいの余裕期間をいただきたいというように我々は申しておったんですけれども、その余裕期間がやはり造成工事のおくれ等々ありまして、全く余裕期間がなくなったというのが現状です。

ただ、今相澤委員がおっしゃった、市から責められているとか、そういうことではなくて、当初やはり震災復興部も被災者に対して大体何年の何月ごろには入居できますというお話をされているはずなのです。その期日が決まっているものですから、頭がおくれてくると、どうしても余裕期間がなくなって同時着工、区域区域の余裕期間がなくなって同時着工せざるを得ない。すると、当然工期も詰まってくるというような現状に今なっているところであります。

ですから、多分市としても、被災された方々に何月には入居できますとお話をされていると思いますが、実際に被災された方々は首を長くして、我々まだ工事をしている最中なんですけれども、関係者以外立入禁止というように再三お触れを回しているのですが、やはり被災された方は一日も早く自分の決まった場所を見てみたいということで、土曜日日曜日もかなりの数の方が見学に来られているようです。そういう状況です。

○委員長（及川秀一） ほかにございませんか。齋 浩美委員。

○委員（齋 浩美） 進捗状況を今話伺ったのですけれども、高性能・同品質・統一単価・同工期には苦勞する面が多くあったと、資料には書かれている

のですが、気になったのは品質や単価となってくると材料が、いろいろと復興が絡んで入手しづらいとか、建物によってはまとまった数が入らなくて別々なものを使ってくれなんていう話もよくあったと思うのですけれども、そういったことで工期が延びてしまうとか、そういうことはないですか。特に材料的に困っているとか、こういうものが入手しづらくて、今人の話で工期がという話がありましたけれども、材料面とかそういったところで気になっているようなこととかはあるのでしょうか。

○委員長（及川秀一） 百田さん。

○名取市商工会工業部会副部長（百田英樹） 現在のところは、材料の不足において工期がおくれるというような事例はございません。今委員から御質問があった、例えば同品質・統一単価と文言を入れているのですけれども、実はこれは公営住宅法という法律がございまして、それにのっかって建物を設計します。例えば床の段差が全くないバリアフリー方式とか、あるいは廊下の幅の問題とか、細かく申しますと、高気密・高断熱建物を維持しなければならないとか、いろいろな基準がございまして、その基準にのっかって我々設計メンバーで設計をしていただいて、確認をとっているわけです。

その中に一つ瑕疵の10年保証というものがあります。これは必ず住宅の場合は、瑕疵保険10年の加入が義務づけられております。この義務づけられている品質を保証するために、地質調査とか、建物の強度、それから今申しました床の段差の高さの問題とか、いろいろな基準をクリアしなければならないのが、なかなか大変という意味でございます。

○委員長（及川秀一） ほかにございませんか。大友康信委員。

○委員（大友康信） 日ごろから本当に復興のために皆様のお力があってこそ、少しずつでも進めていただけていることに非常に感謝しております。

実際にこういう懇談会で、私たち議員の立場といたしましても、少しでも工期がおくれないようにと望んでいるのは皆様と同じだと思うのです。例えばこれから議員に対して、例えばこういったことをどうしてあるとか、そういった要望というのは、まず一つ目の段階の中では、何かこういったことを進める上で応援いただきたいというような要望というのは、何かお持ちでいらっしゃいますか。（「ありません」の声あり）

○名取市建設業者会会長（相澤俊介） 今の復興公営住宅について、何かお願いすること、おっしゃってください。忌憚のない意見を。

○委員長（及川秀一） ごさいませんか。

○名取市建設業者会会長（相澤俊介） では、御質問ということによろしいでしょうか。

よく世間で名取市の復興事業はおくれているというように言われていますが、その原因は何が一番大きいとお考えになるのでしょうか。建設経済常任委員会の皆さんの意見として。

○名取市商工会工業部会副会長（百田英樹） 要は被災3県のうち、名取市が昨年度末、平成27年3月で16.8%程度しかでき上がっていないということで、被災3県のうち一番名取市がおくれているということは、各メディアの情報ももちろんですけども、実際そのとおりではないかと思えます。

○委員（大友康信） 議員として議会の中で、いろいろな復興に関しましては皆さん同じように一日も早く、そしておくれまいよということには思っています。最初の合意形成という、税金とか交付金を使って申請をする前に設計をして、その合意形成があったものに関して申請を上げて進めていくという上で、やはりいろいろな事情を抱える方がたくさんおられまして、その合意形成が本来でしたら、全体の6割を占める意見がまとまれば進むということが本当は前提にあるのですが、同じ家族であっても、例えば若い人から年配の方までいらっしやいまして、合意形成の形を整えるというか、それがなかなか難しかったところが多々あったのかと思えます。

また、あの閑上という町が人数的な規模とか、町として大きなところだったので、例えば一番早かったと言われる岩沼市とよく比較にはなるのですが、岩沼市の町の人数であるとか戸数であるとか、そういったところの取りまとめの比較に関しましては、例えば商業、工業、サービス業、いろいろな業種が入っていました閑上地区という一つの町の中で、それぞれの立場の皆さんの合意をつなげるというのは、すごく苦労があったと見ておりました。それが一番早く進むということに関しまして、それぞれの議員としては悩みながら、それでも一番早く進むであろうというところに意を用いて、多くの議論を重ねてきたと思っております。

そういった意味で、最初のスタートの段階がどうしても遅くなってしまったということが、一つの大きな原因であると思いますが、ただおくれたことに関しまして、逆にいうと、少し丁寧に進めてきたという面もあるのかなと思っております。

○委員長（及川秀一） 進捗につきましては委員各位の、それぞれの考えがございまして、委員会として、例えばおけている、おけていないという部分について統一見解を持っているものではございません。その部分については御理解いただきたいと思います。

それから、進捗につきましては、さまざまな形でメディア等も通じてお聞きになっているような内容は、私どもとしましても情報としては入っております。一つ言えますのは、工期があって、それに基づいた皆様方の工程管理の中で進められているという部分は当然理解しているところではございますけれども、詳細な部分、例えば今お話が出ました宅地の路盤面の造成の工程と建物をつくる工程がどうなっているかという部分につきましては、残念ながら私どももそこまで理解はしておりません。いずれ全体の工程の中で、現在造成工事が進んでいる、あるいは建物工事が進んでいるということの理解は当然あるわけでございますけれども、細かい、恐らく技術的な部分だと思うのですが、今言ったようにその調整をしながら工期を合わせていくという部分、そういう部分につきましては逆に皆さんから現状のこういう部分が改善点としてあるのではないかというような御提案があれば、私ども委員会としても検討の上、執行部に提案をしていきたい考えではおりますので、細かい部分につきましてはそういうことで御理解をいただきたいと思います。

ほかにございませんか。

ないようですので、それでは続きまして、（２）今後の取り組みについて、名取市建設業者会会長の相澤さんから御説明をいただきたいと思います。相澤さん、よろしく願いいたします。

○名取市建設業者会長（相澤俊介） 建設業者会というよりは、名取市復興公営住宅建設推進協議会の代表という立場から発言をさせていただきます。

常日ごろ、関係の皆様、特に建設経済常任委員会委員の皆様方の温かい励ましをいただきながら、復興公営住宅の建設を進めてきました。心より御礼を申

上げたいと思います。

今後の取り組みということですが、今百田さんも話されたと思います。当初我々は、今言われたように300を超える戸建て住宅を3年間ぐらいの期間で仕上げていかなければならない、工事費にして50億円を超えるような、我々が考えてもみなかった、名取市の建設業界では考えられないようなことが降ってまいりました。それで我々もかなり悩みながら、本当にできるだろうかと思いつつここまでやってきて、皆様の関係各位の励ましをいただきながら、下増田の42戸、今閑上1期の25戸を、これは7月までの工期契約となっていました。これを1カ月早めて引き渡すことができる段取りになっています。その隣で1期工事のその2の52戸ですが、4月1日より工事が入りまして、今盛んに基礎工事をやり、これを11月までに引き渡す。そして、きょう圭田地区で50戸の安全祈願祭をやってきました。合わせてことし中に127戸を引き渡しするという、地元の建設業界としては大変厳しいタイトな事業をやっているところであります。

その後、それなりにやってきましたが、まだ中盤戦に入ったというような状態で、平成29年からは2期工事に入って行くわけです。ことし127戸を仕上げていかなければならないということもありますが、中盤戦に入っていると思っております。

いろいろとお話がありましたが、私も当初この事業を受けるに当たって、震災復興部との話し合いもしていく中で、工事着工前の3カ月前にはお知らせ願いたいと、準備期間を3カ月くださいとお願いをしていました。幾つか工区があるわけですが、準備期間は最大の3カ月にしてくださいというお願いをしていましたが、実際は今言ったように閑上1期のその1、その2、高柳圭田地区も含めると、もうそんな話はどこかに吹っ飛んでいるんですね。それは我々も一市民としてこの復興に協力しなければならないし、そういう市民としての思いがありますし、業者としての思いもありますが、市民としての思いがありますので、それは何とかしてやっていこうという決意でおります。

工期を詰めてどうなのかという心配もされておりますが、考えられるのは事故の問題とか、品質はどうだろうとか、そういうことは考えられるわけですが、今のところそういう心配はございません。我々がやっている住宅とい

うのは、高气密・高断熱という仕様でやっていますが、これは義務づけられているわけではありません。測定する義務はないのですが、自主検査ということで気密を測定して、下増田はやらなかったのですけれども、我々も職人も含め元請も含め、もっと精度を上げていこうという観点から、気密をはかりまして、基準が2となっているのですけれども、優秀なところは0.9とか、悪いところでも1.5というように出ています。この数字がもし2を超えても、別に届け出義務はないわけですが、そういうことでは住宅の性能は今のところはクリアしているだろうと自負しているところであります。

復興がおくれている、おくれていると言われていますが、今まではやはり復興には4年か5年かかるだろう、いやもっと五、六年かなというような、曖昧なことでも通っていたかもしれないかもしれませんが、私ども建設推進協議会は工期をいただきますして、ピンポイントで入居される方が決まるわけですね。これは絶対ですから、私どもの都合で工期をおくらせるというわけにはいかないだろうという覚悟を決めながらやっております。

私どもはよく言うのですが、おくれにおくれてきたリレーの最終ランナーだろうということで、アンカーを頑張ろうと頑張っております。今後ともどうぞ御協力のほど、御指導御鞭撻をよろしくお願ひしたいと思います。

○委員長（及川秀一） ありがとうございます。

それでは、ただいま御説明いただきました内容につきまして、御意見を伺っていききたいと思います。御意見、御質疑はございますか。齋 浩美委員。

○委員（齋 浩美） 今後の取り組みという話で少し気になった点を教えていただきたいのですけれども、やはりどうしても工期の話が絡んできてしまうのです。準備期間としている部分がだんだんと詰まってくると、人手不足のような感じというのはどうしても出てくるのかなというのは個人的に思っています。

議会の中で最初推進協議会は55社だったのが、今は46社になりましたという話を伺っていたのですが、今後人をふやしていったりとか、あとは若い人を育てていくというの、職人さんとしては必要なのかなと考えてはいるのですね。復興の話はもちろんあるのですけれども、やはりそういう職人をふやしていくなど、何かお考えとかあるのかなというのを教えていただければと思います。

○委員長（及川秀一） 小畑さん。

○名取市建設職組合組合長（小畑恵一） 組合長の小畑です。現在、市内で260人ぐらいの組合員数ですけれども、建築大工といいますか、大工職で組合に入ってくる人というのは、今よくよくいなくなりまして、どちらかというところ、うちの組合というのは建設に携わる人たちの組合ということで、もともと大工さんが結構7割、8割を占めていたわけですけれども、現在では半分までいるかないかぐらいに減ってはきているのです。

建設職組合に若い人は結構入ってきてはいるのですけれども、大工はなかなか入る人がいないというか、なり手がいないといいますか。各組合にも職業訓練学校があるわけですけれども、その中でもだんだん入ってくる人がなかなか見つからないというか、いないというか、募集をかけてもなかなか入ってこないというような状況でして、それをこれからどのようにして克服していくか、若い人を職業につけるのにどうしたらいいか、その辺今悩んでいるような状況です。

でも、若い人なりにいろいろと考えて、自分で手に職を持ってやっていこうという人たちも結構いますので、なおかつ組合独自に大工の技能検定といいますか、オリンピックみたいな感じで全県から集まって大会を開いてやっていこうということで、宮城県からも応募して、結構表彰を、高い賞をもらっている人もいますので、気持ち的にはやりたいのですけれども、なかなかなり手がいないといいますか、そういう状況にあるところです。

○委員長（及川秀一） 今野さん。

○名取市建設職組合副組合長（今野文秀） 副組合長の今野です。今、齋委員の話の中で、会員数が少し減ったのではないかとということで心配してもらいました。その内容は、民間の仕事が今忙しくて抜けた方もおられます。ただ、私たちはこの復興事業について陳情したときは、市内建設業者の育成と地元住民の就労、労働場所の確保のためにも、復興公営住宅建設において地元建設関連業者に発注する施策を進めてほしい旨の申し入れをしました。

そういう意味では、本当はオール名取、私たちはオール名取でやっているのですけれども、どうしても名取市の人間だけでは補えないということで、今元請関連の業者、正直言って県外からも応援に来てもらっていますし、そういう意味では間違いなく、労働者もふやして責任を持って最後までやり遂げるつも

りでやっております。そういう意味では心配なさらないでもらいたいなとか、そういうことですね。

○委員長（及川秀一） ありがとうございます。ほかにございませんか。齋浩美委員。

○委員（齋 浩美） 今お話しただいて安心はしました。やはり先ほど気密性の話とかで、独自に品質基準を決めているという話があった中で、大工さんのなり手が減っている話も絡めていたと思うんですけども、技能オリンピックとかそういう技術を高めつつ、後継者を育てつつ、先ほど今野副組合長さんがお話しされたように、人をふやすという形で進めていけば品質も上がっていくのかなと考えていました。やはりなり手がいないというのは、金額的な、給料が少ないとか、そういう話なのでしょうか。それとも肉体労働は嫌ですよというところで、なり手が少ない理由をもう少し具体的に教えていただければと思うんですけども。

○委員長（及川秀一） 小畑さん。

○名取市建設職組合組合長（小畑恵一） 大工職というのは、結構道具類が必要になってきます。その道具をそろえるだけでも結構な金額がかかるわけです。実際に自分で持って一人前になるまでに、最低で5年とか、一人前になるのに10年ぐらいかかるかと思うのですけれども、そういうことも一つの原因じゃないのかなと思ってはいます。

足場屋さんとかも傘下に入るのですけれども、足場屋さんとか土工事の人たちというのは、スコップなり道具を持てばすぐ仕事はできるんですよ。ただ、大工職というのはなかなか、かな一つ持ったからといって実際にうまくかなをかけられるわけでもありませんし、かなを研ぐにしても、最初に研いでもうまく研げないですよ。そういう技術が必要になってくるわけですね。そうすると、その技術を習得するのに結構な時間がかかるということで、なかなか若い人たちがその職につかない理由の一つなのかなとは思っています。

○委員長（及川秀一） 今野さん。

○名取市建設職組合副組合長（今野文秀） 関連したことなんですけれども、どうしても職人というのはすぐに育たないんですね。今たまたま震災で、このような仕事の量になりましたけれども、本当に震災前は名取市でも毎年大きい

業者がつぶれるような状態で、震災が起きて、他県からいろいろと応援はいただきましたけれども、他県の応援が来るまで本当に市の職員や地元業者の方が片づけたり、本当にいろいろなことをしたことを思い出します。

やはりそういう意味では、地元業者でしっかり育ててもらおうというか、当然それも仕事がないと育たないのですけれども、それに関連してやはり若い子も育ってくるというんですかね、育たないというのはやっぱり不安要素があるから育たないのかなというのは本当に簡単な話で、そういう意味ではこの議題とちょっと離れているかもわからないですけれども、今齋委員から話が出たので、ついでにお話しさせてもらうような形になるんですけれども。

そういう意味では長いスパンで取り組んでもらって、今回地元の業者にこういう仕事を与えていただいて、本当に地元に貢献できたというのは私たちもうれしいですし、特に私たち業者の中に現場監理している若い子もいっぱいいます。そういう部分が、今まで本当に同じ業者で、今までは商売敵ですね、そういう方がみんな集まってこのように仕事をさせてもらったということに対しては、私たちも初め、特に若い人たちには本当にいい経験をさせてもらったなと思っております。今後ともよろしく申し上げます。

○委員長（及川秀一） ありがとうございます。

ほかにお聞きしたいことはございますか。

なければ、最後の（3）その他に進みたいと思います。

その他につきましては、全般的に今までお話しした中身も含めて、伺いたいと思います。どなたかございませんか。大友康信委員。

○委員（大友康信） 戻るような形になりますが、今回美田園の災害公営住宅のできた中で、御意見とか希望とかが出てきて、それで新しく平屋のBタイプが今度閑上にできるということになったのですけれども、簡単にどのような感じの要望があったのか。広さとか、間取りの的なもので、このようにしてほしいという御意見があったのか伺いたいと思います。

○委員長（及川秀一） 中澤さん。

○名取市商工会工業部会部会長（中澤勝巳） 設計の秋山さんのほうから。

○委員長（及川秀一） 秋山さん。

○名取商工会工業部会部会員（秋山哲也） 推進協議会の副会長をしている秋

山と申します。設計のほうを担当しております。

下増田で建てたときにアンケートをとったらBタイプ、2LDKの平屋建てが一番、大変好評でした。あのときも戸数がかなり多くて、閑上でも恐らく人気が集まるだろうということで、じゃあ2LDKの平屋建てのBタイプが同じパターンでなく、もう一つ枝分かれのパターンで考えてみようという震災復興部からの提案もございまして、それでダイニングキッチンが南側にあるタイプと、それから西側にあるタイプと、二つつくりました。それで現在、閑上と高柳はこの二つのタイプで進めております。

それで、意外と2階建てについては、一番大きい面積で24坪が上限になっております。それ以上大きくできないので、どうしても2階建てについては、1階部分が台所以外の部屋が十分にとれないというデメリットがございまして、平屋建ての2LDKのタイプが、平屋ですからお年寄りにも優しいバリアフリーの建物なので、そちらに人気が集まって、そういう形で進めさせていただいたという経緯がございまして。

○委員長（及川秀一） ありがとうございます。

ほかにございせんか。小畑さん。

○名取市建設職組合組合長（小畑恵一） 今、閑上の工事の搬入路についてですけれども、こういう工事ですので全部整備されてというのはなかなか難しいのかなと思うんですけれども、ちょうど橋浦精麦倉庫株式会社の隣の団地ですかね、あの方にも大変御迷惑をかけて、ほこりを上げたりして、いろいろと我々も頑張っているんですけれども、やはり一番搬入路、工事車両2トン車くらいは、そこそどこんな道路でも入れるのですけれども、ミキサー車とか大きいのが入るのにちょっと苦労していたなという感じです。皆さん、業者みんなその思いで、ただ口に出さないと思うんですけれども。

それで、ちょうどあの辺、いろいろな工事してるんですよ。閑上のほうに今造成しているもので。その辺をちょっと確保してもらいたいなと、ちょっと目をかけていただければスムーズに安全に工事もできるのかなということで、ぜひ足を運んでどんなことをしているのか見ていただければ大変助かるなと思います。よろしくお願ひします。

○委員長（及川秀一） ありがとうございます。齋 浩美委員。

○委員（齋 浩美） 今の小畑さんの話に確認したかったのですが、ミキサ一車では狭いということは、4トン車とかを使っているのですか。

○委員長（及川秀一） 小畑さん。

○名取市建設職組合組合長（小畑恵一） 大きい車が入るように確保はできたもので、しております。ただ、小さいのを使うと今度単価も上がってしまうので、やっぱり大きいのでやらないとどうしても。あとどうしても時間的な部分もありますので、やっぱりその辺、まあ何とかかんとかやっております。ただ、東のほうから閑上のほうから県道塩釜亘理線から東に入って迂回して何とか確保して、閑上1期のその1はやらせてもらいました。今、その2もやらせてもらっている状況ですけれども、なかなかその辺をもっとスムーズにできるようなものがあれば、もっとスムーズになるのかなと思っていますところでは。

よろしくをお願いします。

○委員長（及川秀一） ありがとうございます。

ほかにございませんか。百田さん。

○商工会工業部会副部長（百田英樹） 時間も時間なので、推進協議会の今までのこと、それからさらにこれから先のことですけれども、私どもは設計から、基本的には地元の建設業者が9割以上携わっている、これは元請さん、下請さん、一般の職人さんたちを含めてそうなんです。いわゆる給排水、水道工事ですね、それから電気工事、当然設計をなさる設計集団の方々ですね、今、非常にうまくいっています。これはどこに行っても自負できるぐらい、こんなにうまくいってる協議会はないんじゃないかというぐらいの覚悟でおります。

つい先般、市長を囲む会もございまして、オール名取という名前で、市長を囲ったわけじゃないんですけれども、我々推進協議会のほうでオール名取のさらに活躍というか、一致団結の気持ちをさらに深めようということで団結式をやったのです。その席に来賓として市長をお招きしたのですけれども、市長からも「非常に君たちはまとまりもいいし、こういうメンバーでこれから先もまた復興公営住宅をやっていただけるのであれば、これは非常に安心する」と。

「一生懸命行政のほうも協力するから」という言葉もいただきました。ですから、議員の皆様も今のところ我々のあり方について、御認識としてはそういう御認識をいただきたいと思います。私からの意見です。よろしくをお願いします。

○委員長（及川秀一） ありがとうございます。

ほかにございませんか。秋山さん。

○名取市商工会工業部会部会員（秋山哲也） 推進協議会は実は瑕疵担保責任保険という、引き渡しする住宅に全て瑕疵担保責任保険というものを義務づけられております。したがって、10年の瑕疵担保責任保険が切れるまで、協議会は解散することはできないことになっております。ですから、例えば最後の住宅を引き渡してから10年間存続するということになりますと、いろいろと運営の問題も出てまいります。

そういうのを覚悟で、全て丸のみをして引き受けて、私たちはその覚悟を持ってやっているのですけれども、10年という歳月は長いかなと思っております。そういう意味では、今後協議会が維持運営できるように、維持管理のための、例えば市との契約とか、そういうものを考えることができれば、組織を維持運営しやすいかなというようにも思っております。それはまだ協議会の中で意志統一した見解として持っていませんけれども、いずれそういう形になっていくのかなと思っておりますので、そういうときにはぜひ建設経済常任委員会さんのほうでも援護射撃していただければと思います。

どうぞよろしく申し上げます。

○委員長（及川秀一） ほかにございませんか。中澤さん。

○名取市商工会工業部会部会長（中澤勝巳） きょうは主に意見交換として、復興公営住宅が中心になって要望意見も含めてお話聞いていただいたわけですが、きのう商工会の執行部会がありまして、当然復興についてはかなり御協力をいただきながら、皆さんの意見のとおりオール名取で今一致団結して頑張ってきているわけです。それと同時に、経済ということで全般的に見ると、やはり今のところおくれるよねという、商業もひっくるめた経済なんですけれども。そういう意味で空港の民営化だとか、住みやすい名取だとか叫ばれて、その中での経済活動というか、そういう意味での商工会のあり方、これは宮城県では仙北のほうは合併して商工会も数は多いけれども、単独でやっているのは、千何百人いるのは名取が中心になっているんですね。

仙南は商工会で合併したのは亘理町と山元町だけで、広域連携で岩沼市とはそれなりに、例えば工業部会で視察に行くとき一緒にやりましょうだとか、例

例えば床屋だとか、理美容の関係で講習会を開きましょうとかやっていますけれども、ここに来て私たちも地域であるべき姿というのは、もっともっとやっていかなければいけないなということで、これから研修も兼ねて確認して進むわけですけれども、そういう意味ではこれからはますます議員さんに要望、意見だけじゃなくて、こんなことだとか何かであるとは思っていますので、その節はよろしく願います。

○委員長（及川秀一） ありがとうございます。

ほかにございませんか。

ないようでしたら、以上で意見交換会を終了いたしたいと思います。

どうもありがとうございます。

○事務局（石川法子） 大変ありがとうございます。

それでは、閉会の挨拶を建設経済常任委員会副委員長であります大友康信より申し上げます。

○副委員長（大友康信） 本日はお忙しい中お集まりいただきまして、本当にありがとうございました。

皆様からいただいた忌憚のない意見、また皆さんで考えて知恵を出し合いながらやれたらいいなと思っております。また、これから復興も発展期ではありますが、今後もこの復興公営住宅の建設につきましては、皆様のお力に本当に頼るしかないところでございます。私たちも今から技術を覚えて大工さんをするのは時間も足りないところですので、ぜひともお力を尽くしていただけるよう、どうぞよろしく願いたいと思います。

また、例えば工事の準備期間がないということで、いろいろな御苦労もこれからますます多いことかと思っておりますけれども、どうぞその後で、被災者の方々がみんな安心して暮らせる生活ができたときに、そのときの達成感であるとか、喜ばれた思いというのがその御苦労の御褒美といえますか、そういうものが味わえると思っておりますので、ぜひともよろしく願いたいと思います。

また、昨日は熊本地震ということで、本当に悲惨なことが起きておりますけれども、この技術であるとか、こういった取り組みがまた熊本県のほうに活かされることになると思っておりますので、ぜひともお力添えをよろしく願いたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

○事務局（石川法子） 以上をもちまして、名取市商工会工業部会・名取市議会建設経済常任委員会懇談会を終了いたします。

本日はどうもありがとうございました。

午後 4 時 13 分 散会